

昔馬車道 (方言 ver.)

作詞作曲／比嘉栄昇

昔馬車道やサツサ

アンパル溝時待つんで(サテイ)

潮ぬ千しや 芋ばかたみてい

手綱引くかー 魚ゆかたみてい

※サツフル ツアツフル チャツフル クワツフル

ゆーりくーりやーよ(はいドードー)

昔馬車道やサツサ

川平村美童(サテイ)

仕事休まり 話ユンタク

子守休まり 縫い物買い走り

※繰り返し

昔馬車道やサツサ

崎枝うしゅまいんーみや(サテイ)

髭ばゆらしてい 三味やかいだぎ

杖ツキツキ 生年祝んかい

※繰り返し

昔馬車道やサツサ

百十変らぬ宝道(サテイ)

異やねさみ 波ぬ夜昼ん

生りばかしねぬ 蟹やわちやぐり

※繰り返し



島人ぬ宝マガしプロジェクト
発起人 比嘉栄昇 (BEGIN)

2001年、石垣中学校二年二組の子供達が書いた「島人ぬ宝」の歌詞の中に、こんなフレーズがあります。

僕が生まれたこの島の空を
僕はどれくらい知ってるんだらう
輝く星も流れる雲も
名前を聞かれてもわからない

島で暮らす人々の心の奥底を表現してくれた、正に宝のような言葉です。

月日は流れ、時代は移り変わり、この歌詞からも新たな意味合いを想像する事が出来ます。僕は名前を聞かれてもわからない!のではなく名前が無いからわからないのではないか?生まれたばかりの赤ちゃんにも名前がついて、その名を呼べば呼ぶほど愛おしくなりますよね。それは僕達のふるさとと同じなのだと思います。

地域を表す名前はいつ頃ついたのでしょうか?それを名付けた先人達がいて、それをみんなで大事にしてきた歴史があつて、今の八重山があります。そんな先人達に想いを馳せて、2016年8月、石垣島の新しい名所をさがそう、という島人限定の応募企画「島人ぬ宝さがしプロジェクト」がスタートしました。同年12月、厳正な審査の結果、82件のエントリーの中から22ヶ所もの新たな島の名所が誕生しました。

これらの新たなスポットを元々あつた歴史と重複しないように、ちゃんと確認を取りつつ、いままであつた歴史を大事にしながら、それぞれの地域や島の子供たちと受け継いでいき、大事にしていきたいでしょう。この島には、まだまだ宝が眠っています。

さあ家族や地域のみなさんと、まだ世界中の誰も知らない「島人ぬ宝さがし」に出かけましょう。

